



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
えな業 83

陶土

室町時代から採掘



▲陶土を乾燥させる

ひとロメモ

山岡町では川の高低差を利用した陶土作りも行われていた。川から水を引き込んで水車を回しドラムを回転させて、長石や珪石を砕いて製造。水車は木で作られたとても大きなもので、昭和30年代まで小里川周辺に散在していたといわれている。

山岡町原地区から産出される陶磁器などの製造に使われる良質な粘土。1429～1441年（永享年間）に武蔵の国の陶工が現在の瑞浪市陶町大川地内に窯を築き、原地区の蛙目粘土を使ったのが発祥の起源。江戸時代後期、1854～1860年（安政年間）に入るといっそう脚光を浴びるようになった。明治・大正時代には美濃焼の窯元たちに「原の陶土がなければ茶わんは焼けない」とまで言わせたほど。石英の粒や雲母の砂が大量に含まれ、石英の粒が蛙（方言でガイロ）の目のように見えることから、蛙目粘土と名付けられた。



▲陶土で作った茶わんなどを窯で焼き上げる

司葉子

日本大正村の村長

えな自慢
84
えな人



▲映画を通じて当市にゆかりを持つ

ひとロメモ

2011（平成23）年の「大正百年祭」では、司村長が先頭に立って、明智町内の大正村再整備の構想づくりのアイデアを出し、実現に向けて地元の皆さんとともに精力的に活動した。

日本大正村二代目村長で、映画「青い山脈」にも出演した当市ゆかりの女優。1934（昭和9）年、鳥取県生まれ。1954（昭和29）年に「家庭よみうり」の表紙を飾ったのが切っ掛けでスカウトされ、東宝と契約して、映画「君死に給うことなかれ」でデビュー。1966（昭和41）年、映画「紀ノ川」で第40回キネマ旬報賞主演女優賞、第9回ブルーリボン主演女優賞など、その年の演技賞を独占した。夫は、元衆議院議員の相沢英之氏。1957（昭和32）年、当市や中津川市で撮影された映画「青い山脈」では、島崎先生役で出演した。また日本大正村の初代村長だった故高峰三枝子の推薦を受け、1999（平成11）年から同村長を務めている。



▲昨年の大正百年事業ちょうちん行列でまちを練り歩く

次号は11月15日号
発行日は11月15日(木)です

広報えな No.185
2012年（平成24年）
11月1日発行

発行 恵那市役所／編集 企画課広報広聴係
〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1
☎(0573)26-2111 / ☎25-6150 / (IP電話) 050-5808-9521
http://www.city.ena.lg.jp/ ☒ info@city.ena.lg.jp

『広報えな』11月1日号、1部当たりの印刷経費は約11.9円（税込み）です。



◀市安心安全メール配信システム
（登録用QRコード）
市WEB版文字放送システム
（閲覧用QRコード）
□問い合わせ 防災情報課（内線317）



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

